



沖縄県糸満市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営(2年目)

(事業 ID : 2024005993)

## 活動報告書

実施期間

2024 年 4 月 1 日 ～ 2025 年 3 月 31 日

一般社団法人 FUTURE Sports & Culture Academy



担当者名：小濱理加  
T E L : 098-911-5125

## 【コミュニティモデルの運営】

- ・2023 年 10 月 2 日「子ども第三の居場所 HOPE」開所  
(開所日：月水金の 10 時～18 時)

### 【利用児童について】

- ・児童登録者数 70 名 (2024 年度)  
内訳：小学校低学年 33 名、小学校高学年 25 名、中学生 3 名、未就学児 9 名。
- ・1 日平均利用者数 14 名
- ・年間利用延べ人数 2,006 名

### 【運営状況】

- ・スタッフ体制  
常勤スタッフ：4 名  
ボランティア：1 名

### 【目標】

- ①2025 年 3 月 31 日までに一日平均利用児童数を 15 名にする
- ②ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供
- ③子どもの「経験の不足」を解消するような定期的なイベントを事業期間内に 12 回実施する

### 【目標の達成状況】

- ① 2025 年 3 月 31 日までに一日平均利用児童数を 15 名にする  
年間平均利用数 14 名  
4 月 (8 名)、5 月 (13 名)、6 月 (13 名)、7 月 (12 名)、8 月 (9 名)、9 月 (10 名)、10 月 (18 名)、11 月 (15 名)、12 月 (12 名)、1 月 (18 名)、2 月 (31 名)、3 月 (19 名)。
- ②ボランティア等の地域住民や行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供  
学校のケース会議への参加や学校周りを通じた認知向上の結果、一部の学校では本事業の活動を出席扱いとして認めるなど、連携が進んだ。また、シニアボランティアや

大学生ボランティアの参加により、多世代交流の機会が増え、子どもたちにとって新たな学びや関わりの場を提供することができた。

③子どもの「経験の不足」を解消するような定期的なイベントの実施（年間12回）事業期間中、最低でも月1回のイベントを開催し、遠足や夏祭り、調理実習、ハロウィン、クリスマス、子ども祭り、宿泊体験学習など、多様な体験機会を提供した。特に「子ども祭り」では、延べ800名の来場者を迎え、400食の無料シチューを提供。さらに、子どもたち自身が縁日の企画・運営を担当し、計画から実行までのプロセスを経験することで、自信と達成感を得る機会となった。

### 【事業実施によって得られた成果】

#### ①子どもたちの生活習慣の定着と学ぶ意欲の向上

- ・スケジュール管理や掃除・学習の習慣が身につき、生活リズムが安定した。
- ・学校との連携により、居場所の活動が出席扱いとなるケースも生まれた。
- ・児童の個別計画書を作成し、一人ひとりに合った目標を設定して支援を行った。

#### ②自己表現力や人間関係構築の力の向上

- ・子ども同士の対話を促し、トラブルを自ら解決できる力が育った。
- ・自分の意見を伝える機会を増やし、自己表現の向上につながった。

#### ③学校・地域・多世代とのつながりの強化

- ・学校のケース会議への参加や学校訪問を通じて、認知度が向上し、支援の幅が広がった。
- ・シニアボランティアや大学生の関わりを通じて、子どもたちが多世代と交流する機会を得た。
- ・一般開放日には多くの子どもや保護者が訪れ、寄付物資の配布を通じて必要な家庭への支援や認知にもつながった。

#### ④多様な体験の提供による成長の促進

- ・毎月1回以上のイベントを実施し、子どもたちの「経験の不足」を補う機会を提供。
- ・子ども祭りでは800名の来場者を迎え、手作り縁日を通じて計画から実行までの経験を積み、自信や達成感を得ることができた。

⑤保護者支援の実施と家庭へのサポート

- ・保護者の個別相談を受け、家庭環境や子育てに関するサポートを行った。

⑥安心して過ごせる「第三の居場所」の提供

- ・子どもたちが安心して通える環境を整え、学校と居場所の併用が可能になった。
- ・一般開放日や個別相談などを通じて、必要な支援を必要な家庭に届けることができた。
- ・継続的な支援を通じて、社会的相続を補完する基盤を築くことができた。

【活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案】

①保護者支援のさらなる充実

課題: これまで個別相談や面談を実施してきたが、保護者同士が相談し合える場がなく、また、保護者自身の心身のケアにも十分な対応ができていない。

対応案: 保護者が気軽に話せる交流の場として、月に一度のお茶会や勉強会を企画し、悩みを共有しやすい環境を整える。また、保護者向けのリフレッシュ機会を提供し、心身の負担を軽減するサポートを行う。

②学習レベルの把握と成果の「見える化」

課題: 学習の時間は定着したが、子どもたちが自主的に選んだプリントをこなすだけになり、個々の学習レベルを把握できていないため、成長の実感が持ちにくい。

対応案: 一人ひとりの学習状況を把握し、適切な学習計画を立てるとともに、成果を「見える化」する仕組みを導入する。例えば、学習の進捗を記録し、できるようになったことを可視化することで、子どもたちが自信を持てるよう支援する。